

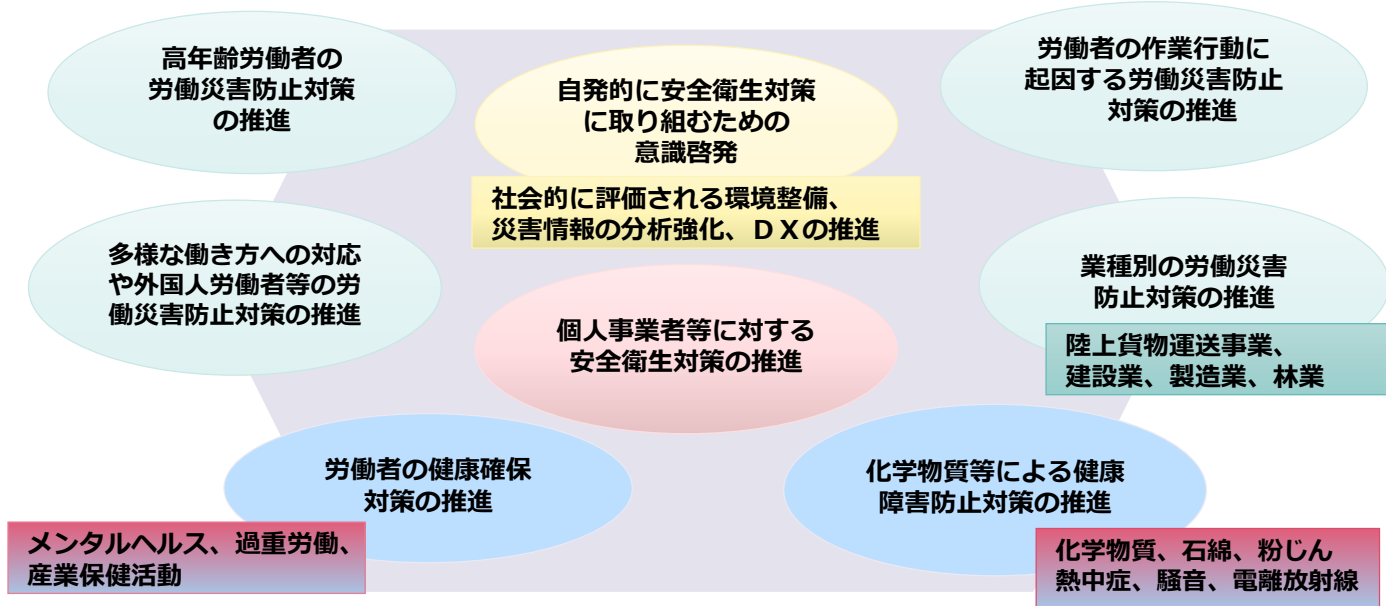
鹿児島労働局 第14次労働災害防止計画（概要）

令和5年（2023年）4月1日～令和10年（2028年）3月31日

○計画の方向性

- 厳しい経営環境等様々な事情について、それらをやむを得ないとせず、**安全衛生対策に取り組むことが、事業者にとって経営や人材確保・育成の観点からもプラス**であると周知する等、**事業者による安全衛生対策の促進と社会的に評価される環境の整備**を図っていく。
- 引き続き、中小事業者なども含め、事業場の規模、雇用形態や年齢等によらず、**どのような働き方においても、労働者の安全と健康を確保する**とともに、誠実に安全衛生に取り組まず労働災害の発生を繰り返す事業者に対しては厳正に対処する。

○8つの重点対策



○計画の目標

重点事項における取組の進捗状況を確認する指標（アウトプット指標）を設定し、達成目標（アウトカム指標）を定める。

主なアウトプット指標	主なアウトカム指標
○労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進	
・ 転倒災害対策（ハード・ソフトの両面からの対策）に取り組む事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。	・ 転倒の年齢層別死傷年千人率を男女ともその増加に歯止めをかける。
○高齢労働者の労働災害防止対策の推進	
・ 「エイジフレンドリーガイドライン（高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン）」に基づく取組を実施する事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。	・ 60歳以上の死傷年千人率を2027年までに男女ともその増加に歯止めをかける。
○労働者の健康確保対策の推進	
・ メンタルヘルス対策に取り組む事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。	・ 仕事等に関する強い不安、ストレス等がある労働者の割合を漸減させる。

死亡災害：5%以上減少 死傷災害：増加傾向に歯止めをかけ毎年漸減

計画の重点対策

自発的に安全衛生対策に取り組むための意識啓発

- ・ 安全衛生対策に取り組む事業者が社会的に評価される環境整備（安全衛生に取り組むことによる経営や人材確保・育成の観点からの実利的なメリット等について周知）
- ・ 労働安全衛生におけるDXの推進（ウェアラブル端末等の新技術の活用及びその機能の安全性評価についてエビデンスの収集・検討）等

労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進

- ・ 中高年齢の女性を始めとして高い発生率となっている転倒等につき、災害防止に資する装備や設備等の普及のための補助、開発促進を図る。
- ・ 介護職員の身体の負担軽減のための介護技術（ノーリフトケア）等の腰痛の予防対策の普及を図る。等

高齢労働者の労働災害防止対策の推進

- ・ 「エイジフレンドリーガイドライン（高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン）」に基づく対策の促進（エッセンス版の周知啓発）

労働者の健康確保対策の推進

- ・ メンタルヘルス対策・過重労働対策の推進 等

他、計8つの重点を定め対策を推進

鹿児島労働局 第14次労働災害防止計画 アウトプット指標とアウトカム指標

アウトプット指標	アウトカム指標
(ア) 労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進	
<ul style="list-style-type: none"> 転倒災害対策（ハード・ソフト両面からの対策）に取り組む事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 卸売業・小売業／医療・福祉の事業場における正社員以外への安全衛生教育の実施率を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 増加が見込まれる転倒の年齢層別死傷年千人率を2022年と比較して2027年までに男女ともその増加に歯止めをかける。 転倒による平均休業見込日数を2027年までに40日以下とする。
<ul style="list-style-type: none"> 卸売業・小売業／医療・福祉の事業場における正社員以外への安全衛生教育の実施率を2023年と比較して2027年までに増加させる。（再掲） 介護・看護作業において、ノーリフトケアを導入している事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 増加が見込まれる社会福祉施設における腰痛の死傷年千人率を2022年と比較して2027年までに減少させる。
(イ) 高齢労働者の労働災害防止対策の推進	
<ul style="list-style-type: none"> 「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」に基づく高齢労働者の安全衛生確保の取組を実施する事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 増加が見込まれる60歳代以上の死傷年千人率を2022年と比較して2027年までに男女ともその増加に歯止めをかける。
(ウ) 多様な働き方への対応、外国人労働者等の労働災害防止対策の推進	
<ul style="list-style-type: none"> 母国語に翻訳された教材、視聴覚教材を用いるなど外国人労働者に分かりやすい方法で災害防止の教育を行っている事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人労働者の死傷年千人率を2027年までに全体平均以下とする。
(エ) 業種別の労働災害防止対策の推進	
<ul style="list-style-type: none"> 「陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策ガイドライン」に基づく措置を実施する陸上貨物運送業等の事業場（荷主となる事業場を含む。）の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上貨物運送事業の死傷者数を2027年までに2022年と比較して5%以上減少させる。
<ul style="list-style-type: none"> 墜落・転落災害の防止に関するリスクアセスメントに取り組む建設業の事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業の死亡者数を毎年3人以下とする。
<ul style="list-style-type: none"> 機械による「はさまれ巻き込まれ」防止対策に取り組む製造業の事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製造業における機械によるはさまれ・巻き込まれ死傷災害件数を2027年までに2022年と比較して5%以上減少させる(57→54件以下とする)。
<ul style="list-style-type: none"> 「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」に基づく措置を実施する林業の事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 伐木作業の災害防止を重点としつつ、労働災害の大幅な削減に向けて取り組み、林業の死亡者数を毎年1人以下とする。
(オ) 労働者の健康確保対策の推進	
<ul style="list-style-type: none"> 企業における年次有給休暇の取得率を2025年までに70%以上とする。 勤務間インターバル制度を導入している企業の割合を2025年までに15%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 週労働時間40時間以上である雇用者のうち、週労働時間60時間以上の雇用者の割合を2025年までに5%以下とする。
<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス対策に取り組む事業者の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 50人未満の小規模事業場におけるストレスチェック実施の割合を2027年までに50%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事や職業生活に関することで強い不安、悩み、ストレスがあるとする労働者の割合を2027年までに漸減させる。
<ul style="list-style-type: none"> 必要な産業保健サービスを提供している事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<p>（指標は立てず）労働者の健康障害全般の予防につながり、健康診断有所見率等が改善することを期待</p>
(カ) 化学物質等による健康障害防止対策の推進	
<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生法第57条及び第57条の2に基づくラベル表示・SDSの交付の義務対象となっていないが、危険性有害性が把握されている化学物質について、ラベル表示、SDSの交付を行っている事業場の割合を2023年と比較して2025年までに増加させる。 労働安全衛生法第57条の3に基づくリスクアセスメントの実施の義務対象となっていないが、危険性又は有害性が把握されている化学物質について、リスクアセスメントを行っている事業場の割合を2023年と比較して2025年までに増加させるとともに、リスクアセスメント結果に基づいて、労働者の危険又は健康障害を防止するため必要な措置を実施している事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の性状に関連の強い死傷災害（有害物等との接触、爆発、火災によるもの）の件数を2018年から2022年までの5年間と比較して、2023年から2027年までの5年間で、5%以上減少させる。
<ul style="list-style-type: none"> 熱中症災害防止のために暑さ指数を把握し活用している事業場の割合を2023年と比較して2027年までに増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 増加が見込まれる熱中症による死亡者数の増加率[*]を第13次労働災害防止計画期間と比較して減少させる。 <p>[*]当期計画期間中の総数を前期の同計画期間中の総数で除したもの</p>

上記のアウトカム指標の達成を目指した場合、労働災害全体としては、少なくとも以下のとおりの結果が期待される。

- 死亡災害については、2022年と比較して2027年までに5%以上減少（毎年10人以下）する。
- 死傷災害については、2021年までの増加傾向に歯止めをかけ、死傷者数については、2022年と比較して漸減する。